

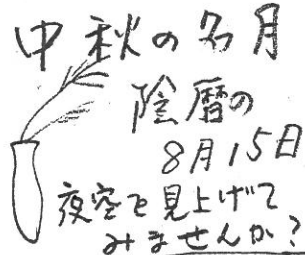
8月の本ベスト5

1. 野火 大岡昇平著
2. 塚本晋也 × 野火
3. 火花 又吉直樹著
4. 女、今も仕事する 大瀧純子著
5. 防災かあさん みんなの防部

# 山陽堂だより 74

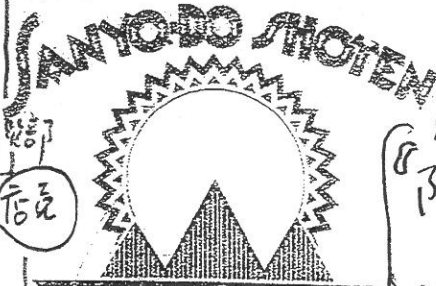
2015年9月長月

9月27日(日)は



8月の雑誌ベスト5

1. 文芸春秋 9月号 芥川賞発表
2. エルシヤホン 9月号 秋のおはれに、新しい私!
3. 家庭画報 9月号 至福の地、伊豆を巡る
4. PEN 8/15号 あいし 東京。
5. SPUR 10月号 新しい女、新しいタミーン



山陽堂書店

自分で決め  
自分で動く。  
助か子には  
それしかない。  
『磯田道史』

8/31~9/5  
『防災かあさん』について  
展示とトークショー  
防災でもある石川淳哉さんと  
一男一女の母でもある合同会社  
ファミリーコンピュータ代表  
渋谷聡子さんの対談!  
ファミリーには、歴史家で  
「武家の家計簿」「無私日本人」  
など、63回日本エッセイスト、77賞  
受賞した「天災から日本史を讀み解く」  
の著者、石川淳哉さんの対談が  
かき送られてきました。

会場には、東北のお母さんたちの言葉が流れていました。

☺

必要最低限のものは  
常に持ち出せる場所には  
あ、は、方がよい

助け合いの  
気持ち

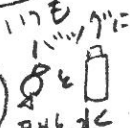
まず、  
自分で  
逃げる

赤ちゃんたちは、  
おむつ、食のものと、  
飲みもの、  
最低限のものに絞る

協力しあえる相手かいた、  
可しく心強かいた

そういうときには  
ほきこいる  
という覚悟と準備

懐中電灯、  
必要なものは



話し合おう、  
おしなやかに

山陽堂書店  
で  
販売

自分で決め、自分で動く  
ためにも 知識と覚悟が必須です!

(本) 防災かあさん  
一家に一本せしむよう 1冊 972円

9/7(月)~12(土) 信濃八太郎『十五少年漂流記』再掲画展

(ジブリ、ハルコ原作、椎名誠・渡辺葉記) → 新潮社刊 1944年刊

・ 読者のため、今回装画と挿絵を描く機会をいただきまして、誠にありがとうございます。  
・ 読んだことのない方から『十五少年漂流記』。本書の仕上がりはPCソフトで絵内  
・ したため、あまりの面白さから余韻として身体に残り、お礼として、今回、  
・ 展覧会のために「一枚の画」として再度描き直してみようと思いつきました。  
・ 作家、椎名誠さんか、小笠原島から愛読して、冒険譚を、長女の渡辺葉さんと共読した  
・ 本書。ぜひ本通にめぐらしてあげたい。信濃八太郎

「防災のあさんにならう?」 Social Boardに載せた言葉たち

- ・自分の身は自分で守る。と名取のお母さんに教わりました。
- ・あまたのいざい昼に災害があつた場合、小さい子供はつかまどうすればいいでしょうか?
- ・これは「けは入れおけ、というスマホアプリはありますか?
- ・大勢いるから安心では無い。
- ・世元のハサトマップを日頃から見とくと。
- ・十効力。
- ・近の人を大切に。

Social Board  
□□□□□

防災に関心不安に思われる場合は「10719」としてお問い合わせください。

「?」と思われた方は、助けあひしゃハロン みんなの防災部 「防災のあさん」のサポ! Go!

羽鳥 晋也  
防災のあさん 7972もどうぞ。山陽堂で発売中。  
各店舗に1冊、ご家庭にも1冊ぜひ!

信濃ハ太郎 新編 44冊  
『十五少年漂流記』  
再編画巻 7巻リットトリ

- ・少年の心を思い出しました。
- ・「十五少年漂流記」は人生のいろいろはん好する小説です。
- ・スリル、スリル、絵はいいですね。"本"という形も大好きです。
- ・や、ほりはの絵は仕方のくるものの大きさが違いました。
- ・静かなたすまいながら、躍動感ある信濃さんの挿絵には、て、
- ・『十五少年漂流記』の舞台は僕も自合の中に住まわしました。
- ・国語科の授業を受けました。子供の頃読んで「ヨロウハロウ」の少年少女向け小説の合同版画のさし絵のようでもあり、与謝野晶子の水島画のつづきもあり、2次元と3次元の世界と見事に再現されていると思いました。また読んでみたいと思つてました。

大岡昇平 原作 塚本晋也 監督 「野火」 リットトリ 「野火」新潮文庫 432円  
場本晋也 × 野火 游学社 1000円

- ・メイキングの映像と拝見し、限られた環境で作品をつくる熱量と強く感じました。作品自体の素晴らしさだけでなく、その裏側に垣間見れたことは、私の人生において限られた環境で自分は何かできるのか、考えるきっかけとなりました。
- ・日映画史に残る作品を、少人数の類まれな才能と情熱で撮り上げられたことに敬服いたしました。
- ・野火を観ました。映画館のイスの上で3回飛び足元を踏みました。本当に恐ろしく途中で退場したのですが、最後まで観ました。食欲もなくなりました... こんな日映画初めてです。でもまたもう一度みてみようかな、という気にはなっています。周りの人にもみせるようにすすめていきます。みなさんはいったい映画のつづきと... 思います。音楽もすばらしい。圧倒されました。

9月30日 19時～20時30分

対談とスライドショー

戦後70年 瀬戸山玄代と斎藤潤氏対談とスライドショー

硫黄島のはなしを表参道で聞く夕べ  
 今夏「狙撃手、前へ」! ある父島移民の戦争」を  
 岩波書店より上梓したドキュメンタリスト <sup>33歳 情報誌編集長</sup>  
 瀬戸山玄さんと、JTB元「旅」編集長で、  
 高島を熟知し尽くした作家斎藤潤さんか、  
 硫黄島を含む小笠原諸島の昔と今について  
 テキストに語り合います。瀬戸山さんの本の主人公  
 榎山天太さん(現在94才)は幼少期を硫黄島で  
 過ごした元狙撃手。かたや作家の斎藤潤氏は  
 8年前の夏、一般人の立入が許されな硫黄島に  
 慰霊団と共に上陸した珍しい経島食の持ち主。  
 マスメディアでは伝えられない海洋国家・日本の辺境から  
 見てくると過去も未来、島々に残る文化や生き方の多様性は、厳しい時代にも  
 へこたない人々の知恵を授けてくれることだろう。

岩波書店  
 ① 瀬戸山玄著 2592頁  
 『狙撃手、前へ』  
 - ある父島移民の戦争 -  
 一度も単戦場を見たとはいえない者が、どこまで詳しくこの近く遠い戦争の時代と、特異な個人史を描けるのだろうか。  
 この真実を掘りこんで脱稿するまでに18年もかかっていた。 - ありかきより -

17年前

『読者の香りに漂っている』 後岸 9/23 1944年

### 村上春樹さんの本 2冊

① 村上さんのところ 新潮社 404頁  
 世界中から届いた3万7465通のメールを、村上さんからいただいたひとりで完全読破し、せつせつと書き連ねた3716の回答から、笑って泣いて考えさせられる473の問答を厳選!  
 例・(頁内364) 本の魅力が理解できずに生じた。(回答) 本を読んでいると、そのあいた別の世界に行くことかできます。現実を離れることかできます。それか僕らに与えてくれる最大の喜びです。本はものすごく個人的な自由な、高次元のテクニカル(乗り物)なです。子供たちは物語の世界を通過することによって、現実社会に自分たちをうまく適合させていきます。読書はとて大層な体験です。優しく見守りあげてくれたらいい。

② 『職業としての小説家』スティーブン・キング  
 いま、世界が渴望する稀有な作家 - 村上春樹が考える、そのこのテーマか、ここにある。自伝的なエッセイも豊かに、希望の長編エッセイ、ついに発刊!(出版社HP)  
 「そんなわけ僕のは、朝から晩まで団体労働をし、借金を返済するに明け暮れなした。(中略)僕には時間的にも経済的にも青春の日を繋ぐ余裕なんてほとんどありませんでした。でもそのあいた暇さえあれば本を手にとって読んでいました。これか、けつせつと、生活かつづくとも、本を読むことは音楽を聴くことと並んで僕にとって変わることかない下な喜びであり続けました。その喜びか、けつせつと奪えなかつた。」(本文より)

原作・大岡昇平 監督・塚本晋也 『野火』 展示  
 期間: 8月25日(火)~29日(土) O  
 (塚本晋也監督と『野火』を語る会)  
 8月27日(木) 19時~20時 (開場18時半)

渋谷ユ-ロスホ-ス<sub>1-2</sub>  
 『野火』上映中  
 9/8まで 11:00/13:00/15:00/17:00/19:00  
 9/9(土)~25(金) 9:30/17:25  
 9/26(土)~10/9(金) 15:00/17:00

『野火』の展示が決まるまで。

『野火』公開前の夏のある日、  
 「チラシを置いていただけませんか？」  
 とひとりの男性が訪ねてきた。  
 すべてお断りしている旨をつたえて数枚チラシをもらった。  
 チラシの裏には、監督の言葉があった。

\* 9/8(金) 19時上映後舞台挨拶  
 ゲスト 塚本晋也 監督

「なぜ大地を血で汚すのか」大岡昇平さんが小説にした、第二次世界大戦フィリピン戦線における日本軍の苦しい彷徨いを映画にしました。  
 50年前に市川崑さんがやはりすばらしい映画にしていますが、  
 本作はそのリメイクではなく、あくまで原作から感じたものを映画にしたものです。  
 初めて読んだのは高校生のときですが、本当の戦場にいるような恐ろしさがあり頭から離れませんでした。

30歳をすぎ本格的に映画にしようと動き始めましたが、規模も大きく中々現実的にはなりません。さらに歳月が流れ、今から10年前に、戦場に行った方々が80歳を越えたときに強い焦りの気持ちが起こりました。その方々のお話だけでも聞いておかなければとインタビューを始めました。しかしそれでも映画化は簡単には進みませんでした。そして、今、実際に戦争の痛みを知る人がいよいよ少なくなるにつれ、また戦争をしようとする動きが起こっている気がしてなりません。今作らなければもうこの先作るチャンスはないかもしれない。また作るのはいましかないと思い、お金はありませんでしたが、多くの力強い協力を得て完成に至りました。

映画は一定の思想を押し付けるものではありません。感じ方は自由です。しかし、戦争体験者の肉声を体にしみ込ませ反映させたこの映画を、今の若い人をはじめ少しでも多くの人に見てもらい、いろいろなことを感じてもらいたいと思いました。そして議論の場に使用していただけたら幸いです。 塚本晋也

この文章を読み、伝わってくるものがあった。そして、監督に山陽堂で話をしてもらえないかとお願いした。

今から40数年前の中学2年のとき、  
 「尊敬する人は、黒澤明監督です。」  
 と自己紹介する男子がいた。  
 私は教室の真ん中後方に座っていて、彼の姿を、斜め左後ろから見ていた。  
 周辺には静かな空気が漂っていた。  
 「おとなっほいひとだなあ。」と思った。  
 フォーリーブスや郷ひろみの番組をたのしみにしているような私とはちがうなと。

出演  
 塚本晋也  
 リリー・フランキー  
 中村達也  
 木村信作

この男子が、現在の塚本晋也監督だ。  
 『鉄男』『六月の蛇』『KOTOKO』で世界的に有名になり、NHKの朝ドラで姿を見かけては、初心を貫き続けている彼を遠くから眺めていた。

あれから40年数年、この映画『野火』が、このような形で再会のときを届けてくれた。

